

令和5年度第2回松戸市
公設地方卸売市場運営審議会
会議録

日 時：令和6年2月29日(木)14時00分から15時20分まで

場 所：松戸市役所新館7階大会議室

1 出席者

【委員】

学識経験者

島田 薫 委員、矢野 裕児 委員

生産者及び消費者代表

本多 康哲 委員、松戸 英樹 委員、土屋 佳子 委員

後藤 淳子 委員、落合 厚子 委員

市場関係者

藤田 寛 委員、山口 政弘 委員、芦田 恵一 委員、

門倉 義和 委員

【施設管理会社】 いちごマルシェ株式会社 栗田 和典 代表取締役社長

【事務局】

片桐 稔 消費生活課長、川上 弘文 南部市場長、

今野 貴章 課長補佐、斉藤 絵美 主任主事、

石橋 卓也 主任主事

2 議 事

(1) 第1回審議会における意見等（一部抜粋）

(2) その他

3 会議録

【司会】

ただいまより、令和5年度第2回松戸市公設地方卸売市場運営審議会を開催いたします。

開催にあたりまして、事務局より2点ほどお願いがございます。1点目としまして、お配りした資料のご確認をお願いいたします。まず資料1といたしまして、本日の会議次第、資料2といたしまして、委員名簿。資料3、席次表。資料4第1回審議会における意見等（一部抜粋）。最後に資料5、JAとうかつ中央取扱農産物集計表でございます。以上5点の資料を配付させていただいております。

資料に漏れがございましたら、お手数ですが挙手をお願いいたします。

次に2点目のお願いでございますが、本日の市場運営審議会につきましては、会議録を作成するため、会議の内容を録音させていただきますのでご了承ください。

それでは、はじめに事務局を代表して、片桐課長よりご挨拶を申し上げます。

【片桐課長】

皆さま、こんにちは。消費生活課長の片桐でございます。開催にあたりまして一言、ご挨拶を申し上げます。本日はお忙しい中、第2回松戸市公設地方卸売市場運営審議会にご出席いただき、誠にありがとうございます。

7月に開催した審議会では、委員の顔合わせとともに、公設市場の現状報告と、約

2年間にわたり、皆様と進めて参りました、将来の公設市場のあり方について、これまでの議論の内容を整理し、まとめたものを改めて共有させていただいたところでございます。

本日は、前回の審議会において皆様から頂戴した貴重な意見を紹介するとともに、今後の審議会運営に向けてご意見、ご提案等を頂戴し、議論を進めていきたいと考えております。引き続き積極的なご参加をお願いしたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

最後に、皆様の益々のご健勝をご祈念申し上げまして、簡単ではございますが、ご挨拶とさせていただきます。

【司会】

それでは、審議会条例第6条第1項の規定に基づき、島田会長に議事を進めていただきますと思います。よろしくお願いいたします。

【島田会長】

それでは、議事に入ります。初めに本日の会議の成立について、事務局から報告をお願いします。

【事務局】

本日の市場運営審議会の会議の成立についてご報告いたします。

本日は委員11名が出席しており、半数以上の出席であることから、審議会条例第6条第2項により開催可能であることを報告致します。

【島田会長】

次に、会議の公開について確認をいたします。松戸市情報公開条例では、審議会を原則公開としております。よって本日の審議会は公開となりますことをご了承ください。

また、会議の傍聴について、事務局より傍聴人の報告をお願いします。

【事務局】

傍聴の申し出は2名です。傍聴要領の規程に基づき、傍聴人は先着5名でございます。

【島田会長】

事務局から2名の傍聴の希望があるとの報告でした。傍聴を許可いたしますことをご了承ください。それでは入室を許可致します。よろしいでしょうか。

～ 傍聴者入室 ～

本日は傍聴の方もいらっしゃるので、市場運営審議会の、経緯を簡単にご説明したいと思います。この卸売市場というのは、卸売業者や仲卸業者など、買う人と売る人達がおりますので、そういう方々をコントロールしないといけないということで、昭和42年にスタートしました。

松戸市の人口は現在約50万人いて、その約50万人の市民が青果物を食べる訳ですから、その食の拠点である卸売市場をコントロールすることは非常に大事なことであり、スタート当時は、南部市場と北部市場という2ヶ所の卸売市場がありました。

色々な経緯があるのですが、今残っている南部市場が大体約1万3000坪あります。その1万3000坪の中に、松戸市でコントロールしている公設部分と、民間の方が運営している私設の部分があります。ここは全国的にもすごく特殊な面白い市場です。

この市場運営審議会は、2001年からスタートしており、会社で言ったら取締役会みたいなもので、南部市場をいかに運営していくかということ、生産者、消費者、それから私どもや、市場関係者の方とか、皆様と今後の南部市場をどうしようというのを話し合っていかなければならない場所なのです。

すごく大事な場所だと思っています。この審議会の歴史について、お話をさせていただきますと、私は発足当初から参加しており、色々なことがありました。2004年に民営の方の卸売市場の松久総合開発様という会社が倒産しました。倒産して、会社更生法が適用されて、その時に、卸売市場は人気全然なく、何もわからなかった素人の私が、専門分野ではないのですが、たまたま論文を書きまして、研究発表みたいなものを作ってください、というので作ったのですが、それをネットで見た弁護士が、この会社更生法の担当弁護士だったのです。どこに売るかは弁護士次第なのですが、その弁護士が私に会いに来て、あなたの言っていることはすごくよくわかる。今のいちごマルシェ様が運営しているような、民間に広げていくしかない、それから、色々な形で仲良くやっていかない限り未来がない、現状と未来という論文を書いたのですが、ありがたいことに弁護士が、私の意思を反映してくれるところを買っていただいて、それがアセット・ロジスティクス様という会社で、この会社が、松久様を買って、2010年にアセット・ロジスティクスはいちごマルシェ様に商号を変えたということです。

2017年に、北部市場がなくなりました。それから2020年に改正卸売市場法が施行されました。2001年にこの審議会をスタートしてから、今2024年ですから、この23年間でこれだけの経緯があったわけです。

最初は民営化か公設かという議論をしていたのですが、法律がどんどん変わっていく中で、今、松戸市も民間のいちごマルシェ様も、両方で非常にいい形で連携して進めていこうという形になり、いちごマルシェ様の努力も大変なもので、高いお金で綺麗なトイレを作ったり、それから外国人観光客など、たくさんの観光バスを呼んだりとか、それからテレビでよく出るようになりました。

私は松戸市には2つの大事なものがあると思っています。1つは、戸定邸、それからもう1つは、卸売市場だと何回も同じことを言っております。会社更生法でマン

ション業者に売られていたら、あそこはマンション村になってしまっていたのですが、私の小さな努力で、今も卸売市場として生き残っていてくれてすごく嬉しいです。これをもっと反映させなくてはならない。それから私は本当に専門外でわからないのですが、先程、矢野先生に伺っていましたら、これからもっと深刻な状態が起きてくるということ伺って、皆様と色々なことで議論して、この南部市場を良い方向に展開していきたいと思っています。

毎回情熱を持って参加してくださる皆さんに心から感謝しています。本日は本多委員から色々なお話をしてくださるそうですので、簡単ですが、その経緯をお話しました。

では、はじめに議事（１）、「前回の審議会における委員の皆様からの意見紹介について」、ですが、皆様には審議会でのご意見とアンケートにてご意見を頂戴し、それを一部抜粋しましたので事務局からご説明をお願いします。

【事務局】

お手元にあります、「資料１．第１回審議会における意見等（一部抜粋）」をご覧ください。前回の審議会において、委員の皆様から貴重なご意見をいただき、ありがとうございました。その中から一部抜粋し、ご意見を紹介させていただきます。

（学識経験者）

約 4000 万円の人件費について、民営化した場合に、どうなるのかなと思った。

民営化する、しない、ではなくて、民営化できるのかどうか。

（消費者）

市場を利用しない委員よりも出荷している生産者の意見・希望を聞きたい。

「道の駅」にして松戸の野菜や新規品目に挑戦している若き農業者の青果を並べ特産品目を作り出す。

（生産者）

このご時世市場に出しても安いことが多く、袋詰め等の手間は掛かるが、自分でスーパーに出せば自分で値段が決められるため売り上げ的にもいい。それが取扱高減の要因の一つ。

市内に出荷できる市場があることは、農業経営での流通、販売の面で大変有利であり、自分で市場まで運搬できることで農業経営の維持（運送料の軽減、他産地の農産物を見聞できることで出荷農産物の改善が出来る、出荷先があることで安心して農産物を生産できる）、農地の保全（農地管理の時間確保、農業経営意欲の確保）が出来ている。

農業の形態、家族労働の人数、或いは品目によって、やはり卸売市場で賄っていたことで農業者が稼げる、という場合は多々ある。

（市場関係者）

全国の農業生産の現状と将来展望、地元農業の現状、小売り業態の変化、消費者の消費構造の変化と見通し、関係の深い物流の実情など取り巻く環境は刻々と大きな動きがあることから公設南部市場がその変化の中でインフラ機能として果たすべき役

割、果たすことができる役割を再度整理することが重要。

松戸市の公設市場としての松戸市（市民、企業）への貢献、さらに地域として市民にも関係性が深い近隣都市にどのような効果をもたらしているかを調査する必要性を感じる。

富山県の公設市場の再整備事業の取り組みがとても良いと思うので調べていただきたい。

市内産青果物の農協を通過している出荷量のうち、地元の市場にどのぐらいの金額がいつているかなど、数字で話し合った方がいい。

卸としての、しっかりした計画と数字、目標を出してもらいたいと思います。そうでなければ松戸市は1市場2社制ということも視野に入れてチャレンジしたらいかがかかと。

（施設会社）

松戸インターに近い南部市場の強みを生かして、小さいながらも松戸市、市民、市内生産者、近隣の町の生産者のためになるような、コンパクトな形で、冷蔵庫、加工・パッケージ、配送センター等の設備を備えた市場ができないものかと考えている。

できるだけ早く、コンパクトながらも高機能な新しい市場を備えるような建物を建設し、継続してやっていきたいと考えているが、こういった機能が必要なのか、皆様にご指導いただきながら考えていきたい。

観光にも寄与するような直売所のようなものを作ることが出来ればと思っている。

例えば、指定管理者制度や民間への業務委託など、民間の力を信じて活用していただくことによって、公共のやる部分の多くは民間企業で代替できると考えている。

こういったものを提案しながら、松戸市の歳出も減らし、農産物の流通も地域農業も活性化できるようなことができないものかと考えている。

以上、一部ではございますが、ご意見の紹介とさせていただきます。

【島田会長】

ありがとうございます。皆様からいただいた意見には「デジタル化して議論を進めていきたい」という声が多数ございました。本日は、その中から一部抜粋してJAとうかつ中央の本多委員ご協力のもと、市内産青果物の農協取扱出荷量のうち、南部市場への出荷金額」について、資料のご準備をいただきました。

では、本多委員からご説明をお願いいたします。

【本多委員】

JAとうかつ中央の本多と申します。よろしくお願いいたします。

それでは資料2の「JAとうかつ中央 取扱農産物集計表」の概要を説明させていただきます。まず、はじめに、JAとうかつ中央とは、松戸市、流山市、鎌ヶ谷市を行動範囲とする農協になります。そのため、この表の中の黒い数字は、この3市の農産物の出荷量になります。

また、この表ですけれども、市場出荷された青果物かつJAが精算作業、いわゆる振り込み作業を行ったもののみの数字となっておりますので、市場出荷されない直売のもの、或いはスーパー内の地場コーナー、そういったものの数字はこの中には入っておりません。

また、精算方法としては、農協を通して精算する方法と、市場から直接農家の方へ振り込む方法がありますので、JAの精算を通らない、市場から直接生産者へ振り込まれた農産物の代金と数量は、この表には反映されていないことをまず確認していただければと思います。

上の方から見ていただきますと、2017年から2023年までを表にしてあります。売上金額についてですが、2017年では16億9,251万3,800円、こちらが松戸市、流山市、鎌ヶ谷市で生産された農産物を市場出荷したのものになります。その下の10億5,828万6,227円、こちらが主にJA取り扱いの松戸市産の農産物の市場を通った金額となっております。

あと、この表の中に沼南中央青果というところがございますが、そちらの精算だけは松戸でやっているの、鎌ヶ谷の生産者の分が若干数字として上乘せされています。

ただ、市場から直接生産者へ振り込まれている部分もあるので、この表で市場を通った農産物の販売金額と数字はわかると思います。

2023年ですと、11億4,616万9,969円が販売金額、そのうち松戸の農産物の市場での販売金額は7億7万3,752円となります。

その下の市場別売上金額ですが、上の2社を見ていただきますと、まず、柏市場の東京シティ青果千葉支社ですが、2017年ですと約5億あり、そのうち松戸市内産のものが約4億ございましたが、今現在2023年ですと、約3億が全体の農協を通して販売した金額、そのうち松戸市内産の農産物に関しては2億2,000万となっております。

今、議題に上がっております、南部市場におきましては2017年では、3億7,800万の売り上げがあり、そのうち松戸市内産の農産物は3億4,600万でした。それが2023年になりますと、2億6,400万の売り上げのうち、松戸市内産は2億3,900万円という数字となっております。

その他の市場につきましては、大田市場や沼南中央青果、東京千住青果葛西支社や本社、東京シティ青果の豊洲市場、長印の市川市場、その他の市場と分かれ、同じような見方になりますので、それぞれ見ていただければと思います。

その下の品目別売上金額というのは、ねぎ・大根・梨・かぶ・わけねぎ・枝豆・ほうれん草・キャベツ・小松菜など、市場に出されている主要品目の売上金額を出してきております。

こちらと同じように、黒い数字が松戸市、流山市、鎌ヶ谷市の3市の合計で、赤い数字が松戸市内産の農産物ということになっておりますので、見ていただきたいなと思います。こちらでは先ほど言ったように、直売やスーパー内の地場コーナーの数字が入っていないので、例えば梨は、2023年ですと、松戸市産は270万円しか市場を通っていないということになっております。

品目別出荷数量についてですが、こちらも上と同じように、主要品目のものを、数

字で出しております。ねぎは1ケース5キロ、大根は1ケース10キロ、梨は色々ありまして、3キロ、5キロ、10キロが含まれております。かぶは1束約1キロ。わけねぎは1袋125g。枝豆は1袋250g。ほうれん草は300g。キャベツは1ケース10キロ。小松菜は1束350gで換算して計算していただければと思います。

こちらがJAとうかつ中央で、市場出荷された農産物で、農協が精算業務を行ったものの販売金額と数量になります。

以上で説明を終わりますが、何かご質問はございますでしょうか。

【島田会長】

2017年から2023年までに数字がどんどん落ちてきていますけど、2017年以前はもっと取引があって、年々減少してきたのでしょうか。

また、減少の理由はどのようなことでしょうか。

【本多委員】

数字が落ちてきている理由としましては、農地が減っているということもございませし、売り方において、直売等も増えてきておりますので、そういったことも減少の理由であると思います。

私が農協に入って30年弱なのですが、30年前から農地面積、農業従事者数ともに減ってきております。

【島田会長】

しかし、人口が増えているということは消費者が増えているわけですが、JAとうかつ中央様自体で、商いと言いますか、そういう数字が落ちていることは事実ですか。

【本多委員】

そうですね。農協で取り扱う松戸市内で生産される農産物の出荷量自体、30年前だと約80億円と言われていたのが、今ですと約40億円と言われておりますので、やはりどうしても市街化農地が多い松戸市ですと、相続等により畑はどんどん減っている現状となっております。

【島田会長】

ありがとうございます。矢野先生、こういうことは全国的なことなのでしょうか。

【矢野副会長】

全国的だと思いますが、特に首都圏等では、やはり今おっしゃったように、相続等が発生すると、どんどん無くなっていく傾向にあると思います。

【島田会長】

農業従事者が減っていつてしまっているということですね。

【矢野副会長】

明らかに減っていますね。昔はこの地域は兼業が多かったのではないかと思いますけど、今は兼業も相当減っていると思います。

【島田会長】

2017年から2023年までの間に、新型コロナがありましたけれども、何か影響はありましたか。

【本多委員】

新型コロナが流行りはじめた時は、農産物の価格が上がったりしたのですけれども、その後からは値段的にはそんなにいつもと変わりませんでした。その理由としては、巣ごもり需要により、スーパー等の売上は上がりましたが、外食をされなくなった影響により外食産業の需要が減ってしまいましたので、結果的に値段が上がらないような状態だったと思います。

【矢野副会長】

お伺いしたいのですが、資料2の表において品目別に記載していただいておりますが、この品目の種類というのは、経年的に見た場合には減っていく傾向なのでしょうか。それとも、あまり変わらないのでしょうか。

【本多委員】

品目ですと、大幅に変わったのは大根です。昔はもっと多くあったのですけれども、極端に減って、かぶの方にシフトしていったというのが現状です。

【矢野副会長】

それぞれ農家さんが今までは色々な種類を作っていたのが、今はもう本当に数種類しか作らないという傾向なのか、それともそういう傾向はあまりないのでしょうか。

【本多委員】

市場出荷メインの方は、1つ2つのものを大きく作って効率よく販売しておりますが、直売の方ですと、細かく色々な多品目を栽培しています。

ただ、品目はやはりその時の長いスパンでの売上金額や単価などを見て、例えば大根農家が少なくなって、かぶにシフトしていった理由としては、大根は重たく、大変で、値段が上がらなくなってきたし、資材経費がかかる。それだったら、同じ経費で作ることが出来るかぶの方が収入を上げることができるということで、かぶの方にシフトしていった傾向があります。

また、枝豆ですと、取り立てが一番おいしいと言われており、それからどんどん味が落ちていきますので、そういう枝豆にシフトしていく。このような品目の変化は、

年度ごとに変わっていくことはあります。

【矢野副会長】

というのはですね、松戸だけで全品目を生産することは当然無理なのですけれど、いかに地産地消比率を上げていくかという時に、やはり品揃えが重要であるし、品揃えも季節によって大きく差異があって、色々なものを生産し、そして季節的に見たときに、どれぐらい地産地消比率を上げられるか、というところで考えていってはどうなのかなと思いました。

傾向として、品揃えからいっても、中々地域では揃えられない状況になっているのではないかと思うのですが、その辺はいかがでしょうか。

【本多委員】

色々なものを作れないわけではないのですけれども、あくまでも松戸だけのもので販売が安定して、購入していただけるのであれば作れると思います。

しかし、やはり他の産地、愛知県だったり、神奈川県だったり、或いは、同じ千葉県でも銚子であったり山武であったりと、他産地との競争もありますので、それにより、例えば大根、キャベツ等ですと、三浦と銚子でその間を出荷していくというのが、昔から松戸はそういうやり方ですので、周年通して、地産地消のためだけにやってお金が取れば、それで一番いいことだと思うのですが、取れないので、やはり品目は絞られてしまいます。じゃがいもや玉ねぎについても、やはり北海道の物量で来たものと、価格競争になると、どうしても経営的に成り立たないので、こういうところで、ただ直売の方は、いろんなものも、常に地場コーナーを埋めないといけないということで、少量ずつ作ってはいらっしやいます。

【島田会長】

ありがとうございました。補足もしくは感想、または質問はございますか。松戸委員いかがでしょうか。

【松戸委員】

私も色々な種類を作っていますけれど、大根を作り、この時期に出荷するとなると、下にマルチを敷いて、その上にビニールを敷かないといけないので、ほうれん草や小松菜だったら下のマルチはいらないし、ビニールじゃなくて、ポリフィルムをかけると済みます。ビニールだと3年ぐらいしかもたなくて、それを処分するにも農家だと産業廃棄物になってしまうので、お金も掛かります。ポリフィルムだったら、5、6年以上もって使えるので、そっちの方が処理もあるし、色々な面で楽なので、時間とお金の掛からない方にいきますし、例えば市場に出荷するときは、ダンボール1箱が150円ぐらいしたと思います。それで大根一本100円ですと要は、1.5本分箱代に取られてしまうので、10本1箱だとしても8.5本分の売り上げしかないわけです。それを考えたら、かぶの方が1箱を同じ150円にしたとしても、お金になるので、結局

大根を減らした、ということがどこの地域でも多いですね。

あと、キャベツにしても、昔は高い安いの波があったって言いますが、今は波が無く、ほとんど一定という状態なので、上がらないから、今、ブロッコリーとかにシフトして、キャベツ減らしてという形になっているので、結局お金が取れる野菜をやらないと、生活が成り立たなくなってくるので、結局売れるものへ売れるものへと変化しています。

【島田会長】

2017年から2023年までで、数字がどんどん下がっておりますが、松戸委員のところも、売り上げ的にもそういう感じですか。

【松戸委員】

うちの場合はスーパー出荷がメインになっておりまして、市場には全く出荷していないので、多品目で他人と被らない品種であれば、他の人は安くしても、自分は大体いつも150円で売るとかにしておけば、平均単価が取れているので、安くはなっていないです。

皆さん、多分、市場出荷からスーパーへの出荷に切り替わっているもので、どんどん、この表の中の売り上げが減っているということもあると思います。

スーパーができるために、あちこちに地場野菜コーナーを作っているもので、皆さんそっちの方に、移動しています。

そんなことがあって、売り上げが減っているのと、うちもそうですけど高齢化で親が1人死んでいなくなる。そして介護するようになると、2人仕事できなくなる、そのようになってしまうので、人手が減って行って、出荷も減るという形が多く、どこの農家でもそのような感じです。

【島田会長】

収入が右肩上がりじゃなくて、下がっているわけですよ。

【松戸委員】

そうですね。出荷量が減ってきているので、親が健全であれば、ずっと変わらないのですけど。

【島田会長】

農業の現状は、かなりビジネス感覚がないとやっていけないと改めて感じましたけれど、藤田委員、ご意見ご感想などありますでしょうか。

【藤田委員】

2017年からの数字ということでお示しいただいて、たまたま私どもの千葉支社が柏市場の方に移転をした年からの数字かなというふうに思います。

その時から見てざっと見ると大体7掛けから6掛けぐらいになっているっていうのは、この数字でも認めて、私ども実際に取り扱いをしていますが、地場産という地域の野菜というものは大体そのぐらいの感覚で考えています。

明らかにやはり生産者の数が減っています。それから、生産者の数は、そこまで減っていないにしてもやはり一人一人の作付の量というか、それが減っているような気もいたします。

というのはやはり、毎年毎年同じにやっているよという話で、ずっと出荷の打ち合わせ等もしていっているのですけれども、大概数パーセント下がっているというのが、この近場の産地でもそうですし、全国的に見ても、大体そのような傾向が見えています。

ということで細っているのだなと。それで品目について、先程先生の方から質問があったと思いますけれども、やはり販売先のターゲットをどこに絞るかということによって、やはり作成する品目も変わると思いますし、多種の品目をやった場合には多種のものを引き受けていただけたところが明らかにあることが必要であって、どうしてもどこか、販売先を1つ、ターゲットを絞ってやろうとした場合には、ある程度のロットというか、まとまりがないと、なかなか結びつけられにくい、販路を作りづらいということは、やはり生産者の方も必然的にそういう生産行動にそこが結びついていく気がいたします。

ここのところは青果の業界の話を言いますと、やはり数量が少ないので、単価が高い、数量減の単価高、このため、実際の取り扱いの金額ということがある程度維持されているのですけれども、実際には冒頭申し上げましたように、数量が減っている。だからこれはやはり根本的に抱えている大きな問題であろうと思います。卸売市場そのものもこの先を考えたときには、減っていく生産量、生産者の方を、どのように捉えて、またその減っていく中をどのように組み立て直していくことが必要なのか、そこら辺が非常にこの先を考える中では、重要なのではないかと、そんな思いをしております。

【島田会長】

ありがとうございます。山口委員いかがでしょうか。

【山口委員】

正直言って学校給食が扱っている青果物の数量は馬鹿にならないと思います。

先程農協の本多委員がおっしゃいましたが、松戸市内産の品目をある程度絞り、例えば、玉ねぎとかじゃがいもや人参などの品目に絞り、学校給食に卸すようにしていけば、かなりの量が動くと思います。

後、小松菜は東葛に結構な量ができるのですが、値段がものすごく高い時もあるれば安い時もある感じがするので、ある程度、市でも政策的に今回小松菜を出荷するのはこの地区で、別の地区は別の野菜にする、このようにしていけば活性化出来るのではないのでしょうか。

農家からしてみても、そういったことがわかれば安心して出荷できるのではないかと思います。課題を一つ一つ改善していけば市場の機能は回復するし、農家も回復していくと感じております。

また、市場では値段の付かない曲がった青果物でも、直売所であれば取り扱っており、消費者もそれを購入しているのです、新鮮であるということを確認しております。

そのような形の悪い青果物を廃棄したりするのではなく、卸売市場を経由して学校給食に卸すことが出来ればいいのかなと思いました。

【島田会長】

ありがとうございました。本多委員、生産者の方のネットワークづくりや情報が集まるようなシステムなどはありますか。

【本多委員】

生産者同士ですと、出荷組合だったり、農事研究会の研究組織だったりするものもあるので、そういうところでの、情報交換だったり、各売り場での直売だったり、市場だったり、情報交換はしています。

【島田会長】

松戸委員はそういったところに参加していますか。

【松戸委員】

無農薬栽培研究会なんかも特に昔は頻繁に会合をやって、色々な新しい品種を市場に出荷しようということをやったことはあります。

例えば、その地域毎での出荷組合がありますけど、そこでは、今までやっていたホウレンソウ、小松菜、枝豆等で、新しい品種を作ろうとは中々起こってこない。或いはどこにいても現状維持の状態ですね。

【島田会長】

ありがとうございます。芦田委員、何かご意見ご感想等ございますか。

【芦田委員】

今、数字を見させていただいたとおり、市内での栽培は減っている。これは、宅地化等々もあった世の中で、仕方ないのかなとは思いますが。

しかし、冒頭会長がおっしゃったように、松戸市の人口が増えて、需要はしっかりあるってことですので、ここにやはり注目したいと思います。松戸市の中で、大型量販店が、松戸市立病院の跡地に1店舗出ました。また、その先に生鮮市場が出て、八柱の方にはベルクさんがいたり、松戸市民の食を支えるための、生鮮食品を販売する店が増えております。増えているということはそれだけ商売になる。企業の営業が成り立つから店舗を出すと思います。

まずはそこに注目した中で、今日は市場運営審議会ですから、松戸市場が、松戸市民のための消費に対して、どれだけ役に立っているか、というところですね。

松戸市の栽培する野菜は、先程松戸委員が言いましたけども、量販店が増えれば、地場野菜コーナーへ自分で持って行っているのですよね。

(→松戸委員) 持って行っています。

昔はそれを藤田委員や私は、夕方にセリをやるシステムがあって、そういった地元野菜を、特産物として扱って潤った時代は、過去のものになってしまいましたけど、そういった時代もありました。

農家さんが、そういった新しいチャンス、消費者にもっと近づいたチャンスをものにして、農家さんも、先ほど言った、今まで大根を作っていた農家さんが違うものを作る。松戸委員とも僕は付き合いが古いのですが、松戸でラディッシュを作ったのは松戸委員が一番はじめだと思います。

それで色々な野菜を作って売場を活性化し、それが狙いで量販店さんが直接農家さんと会話をします。市場の役割、また仲卸の役割を外していくっていう仕組みですよ。それはそれでいいですよ。だけど、松戸市は消費が拡大しています。その中で、南部市場が何をやっていくか、先ほど藤田委員がおっしゃっていましたが、平成29年から北部市場が無くなって、南部市場74億、令和4年56億。この間市場の売上が約20億落ちています。

だけど、松戸市のマーケットはもっとかなり増えています。なので、松戸南部市場のあり方に問題があって、東京千住青果様が今日は来られていなくて残念なのですが、やはりその営業努力があってこそその市場活性化だと思います。

それをしっかりここで、民と松戸市がしっかり話をしながら、松戸市場活性化に繋げていくことができればいいと思います。そしてそこにこの南部市場の東京千住青果様等のご意見を聞きながら進めていくべきかと思います。

松戸市の農作物は非常にいいものがいっぱいあります。本多委員とも松戸委員とも私はこれまでたくさん関わってやって参りました。例えば、その中で消えていった野菜があることは残念なことではありますが、だけれども松戸委員のように勉強して、イタリアン野菜とか、今まで松戸で作っていない野菜を作って、直接スーパーマーケットに自分で足を運んで持って行く努力をしているから農家さんが現状維持をしているのだと思います。

市場が維持出来ないという部分については、この努力が足りないから維持できないのであって、人口約50万人の都市に対して、1市場50億程度の売り上げとなっているところを見ると、市内で契約している量販店は、豊洲市場等から仕入れているのだと思います。

そういうところは、南部市場のあり方、市場運営審議会の中でいちごマルシェ様とも話しながら、新しいビジネスパターン、ビジネスモデルを考えていきたいです。ターゲット的な考えもありますけれども、まずはセグメント的な話をしながらいくべきかと思っています。

以上です。

【島田会長】

ありがとうございます。門倉委員、何かご意見ご感想等ございますか。

【門倉委員】

資料2の表を見させていただきますと、松戸だけではなくて、全国的に卸売市場の流通というものは減ってきているのかなと感じておりまして、私共も勉強のため、南部市場が活性化するために、他の市場を回り、色々な情報収集をしているのですけれども、やはり皆様どこも同じ悩みを抱えておりまして、この数字で見られる通り、どうしても物量が減っており、市場を通さずに直接やられている方が多い、というお話も多々聞いております。

そういった中で、私共は施設会社でございますので、こういった形にしながら市場の物流が上がって、また売り上げが増えていくか、そういったことを今後とも卸会社である東京千住青果様、または仲卸をされている出店者の皆様とも考えていきながら、少しでも市場に貢献できるような体制づくり、こういったものを構築していくことが大事かなと感じております。

以上でございます。

【島田会長】

ありがとうございます。施設会社の立場として、栗田社長いかがでしょうか。

【いちごマルシェ(株)栗田社長】

資料2の表を拝見しますと、やはり全体的に取扱量は減っている傾向があり、その中で、これは東葛エリアの生産物に限ったのことですけれども、全く同じ傾向で推移しているのかなと見て取れました。

そのような中で、この東葛エリアの生産を考えると、品目別で見れば、例えば梨や枝豆などはあまり減っておらず、競争力のある農産物というものがあるのだろうなと感じました。この東葛エリアの農業の活性化ということを考えるならば、そういう品目をどのように育てていくか、ということが重要なのかと思いました。

一方で、卸売市場の取扱高の減少は全国的にも同じ傾向にあるようで、我々が他市場関係者からヒヤリングを受けたり事業協力等に関わったりする中でも、卸売市場は少しコンパクト化して高機能・高効率化しながら、全体としては地域の活性化に貢献できるような施設を併設して再整備する、という動きが目立ってきているように感じております。

我々もこの南部市場を活性化しながら、地域の活性化にも貢献できるような動きがつかれていけたらいいかなと思っております。

以上でございます。

【島田会長】

ありがとうございます。毎日買い物をなさる消費者の立場で、土屋委員どうでしょうか。

【土屋委員】

私の方は不動産業で食べていますが、正直な話農家もしています。私の方は直売で色々な工夫をしながら、生産をして参りましたけど、やはり高齢化と、それから、消費者の方は皆様共働きの方が多いので、できるだけ簡単な食材を求めているから、ことはすごく肌で感じます。

例えばインゲンとか、絹さや等の緑黄色野菜は、昔はたくさん売れました。ところが今の若い方は、ツルをとり、手間を1つかけるのは、あまり好まないようです。そういった関係で、やはり手間のかからないものを皆様求めているから、そういった野菜は減ります。先ほどから出ておりますけれども、大根はやはり重たい。こんなに大きなものは小さい家族ではいらぬ。半分とか4分の1だったらスーパーだったらそれでよろしいという感じの方が、多々多くて、漬物とかもする方も少なくなっていますので、そういったことで、品種や生産のものが変わっていくのは当然だと思います。

先ほど出た小松菜とかホウレンソウとかは、知られた野菜なので、私どもも使いやすいですし、消費者としても使いやすいし、非常に需要はあります。そういうこととそれから、スーパーとかそういうところに、いつでもトマトもきゅうりもあります。だから、冬に私共の直売でやっているときに、トマトありますか、きゅうりありますか、と聞かれる方がすごく多いです。季節感はないのですよね。もう出来あがったものを食べていらっしゃる。だから、そういう野菜の選定もやはりこれから考えていかなければいけないのではないかとということも、私も思い浮かびますし、それから、近年のこういう暑い夏がありますよね。それに対する対応の野菜もやっぱり農家が考えていかなければいけないと思います。

雑多なことですけど、私の友達の農家さんに、市場はどうでしょうかね。どう思いますかと聞いたら、スーパーに荷物を搬入するのも大変ですし、色々なことで細かい作業が大変だから私たちの作ったものも、市場でそれなりに認めていただけて、お金になるのであれば、市場に持っていきたい気持ちはたくさんありますよ。という話を聞いています。多分それは本音だと思うし、私どももそういうふうを考えております。まとめませんが、以上になります。

【島田会長】

ありがとうございます。後藤委員はいかがでしょう。

【後藤委員】

皆様がおっしゃっていた意見と重複するのですが、今、農地が減っているとい

うことでは、相続の問題、宅地の相続の部分は、もう普通に評価通りですよね。生産しているときは生産、あちこち生産っていうのがありましたけど、じゃあ生産者は何もしないでいいのかというと、ある人の話では、相続のことを考えて、その相続税を払うために、近隣で安い農地を手に入れて準備しており、やはり相続が発生した際はその土地を売って、今、生産している農地は、そのままできるようにというふうにしたとか、やはり生産しているときはともかく、次世代に農地を繋いでいくっていうときにない。今、近くの農家さんなんかでも、息子が今家を建てていると言うので、息子さん帰ってきて、農家を継いでくれるのですかって聞くと、いや、そうではない。今まで農地だったところにアパートを建てて、息子さんは帰ってすぐ家を建てて、そういう形で減っていくという部分もあるので、その方は、直売でまとまって、品種を少し出すのではなくて、でも新しい野菜が、売れるという情報が入ると、どんどん作って品種は増やしてはいるのですけれど、なかなか市場を通してというところでは、ここに、数字には反映されないという感じでいます。

先程、給食の話も出ていましたけれど、私たちも2回ぐらい教育委員会に地場野菜を使ってもらいたいと話しましたが、給食は校長と栄養士が決定しているということになると、なかなか献立表を作ってもその時に、そのお野菜は、ちゃんと必要量が用意できない場合はってということが、いつもこれ出てくる利用者負担ですね。

ですから、松戸のお野菜に限定してということとはできない、と断られました。私は2回くらいしか教育委員会の方には行ってないのですけれど。

それで、今、年に1回地産地消のものを使って給食をやっています。しかし、年に1回なのです。ですからそれをもっと増やしてやっていけばいいと思うのですけれど、先程おっしゃっていた小松菜は年間ずっと関わって作っている方も多いです。

ともかく、できるものから、取り入れていってくださればと思うのですけれど、そういうことを、やはりある程度組織として、行っていただく。教育委員会の方でも学校教育の1つにこういうことも考えて、それも児童への食の教育、食育になっていきますので、それをちゃんと買っていただく、この前も出ましたけど枝豆について、それは松戸市の税金で準備して、だから年間3.4校ですけれど、枝豆を給食のときに食育ということで、お話をして、給食に出していくとしていますけれど、それはやはり税金から出すのではなくって、給食の費用のところで賄えるように、どんどん変えていけるような状態に、枝豆高いですからね、厳しいのですけど、でもやっぱりそういうふうにしていかないと、食べているよと。松戸の枝豆食べているよ。でもこれは、給食費として出すのではなくって、これは松戸市の税金から別にプレゼントされたようなものという事をやっぱり続けていくっていうのはあまりよくないじゃないかと思うので、ぜひ教育委員会の方にも、働きかけていただきたい。

【島田会長】

ありがとうございます。落合委員はいかがでしょう。

【落合委員】

2点だけ意見を述べさせていただきます。1点は先程の規格外の野菜がもったいないと思います。規格のいいものは、スーパーで生産者が出していますが、その漏れたものをどうにか工夫して、売れたらいいなと思いました。

第1回の抜粋の意見でもコンパクトながらも高性能な新しい市場、そこにある活路を出したら見いだしたらどうでしょうか。安くて新鮮ならちょっと規格外でも買うと思います。

2点目ですが、先程、生産者の意見として土屋委員の方から出ましたが、まとめて市場に持ってきた方が儲けとしては非常に良いという意見もございました。せりが終わった後の市場は、無人になるわけですよ。あそこに何か、生産者が出荷した後に集まって、何か工夫して、パック詰めとか、それから先程言ったような、加工品を作るのはどうでしょうか。売れなかったものの、市場でないようなものを加工品として、消費者としては、手間もかからないので非常にありがたいですよ。

その作ったものを、駅前で売るとか、何か活路を見いださないと、このまま行けば本当に市場は大変なことになると思います。ぜひ、前向きに何か新しいことを考えないといけないと思います。

以上です。

【島田会長】

ありがとうございました。本当にご専門の方って矢野先生しかいらっしゃらないのですが、今後のこと、起こるべく、市場に大きな影響を与えることも踏まえて、ご意見ください。

【矢野副会長】

ちょうど物流問題が2024年4月から時間外労働の上限規制が始まり、これによって一番影響を受けるのは長距離輸送、そして生鮮だと思います。野菜、果物、そして水産系が、これから長距離が運べなくなる可能性が非常に高い。特に九州からだと、今まで、九州から東京へ持ってくる時に、卸売市場では東京の卸売市場は3日目販売をしていましたが、それが出来なくなり、4日目販売をしなければいけない。そしてコストは相当上がる。そういう意味ではですね、東京都中央卸売市場だと、500km以上の長距離は大体37、8%ありますから、それらの37、38%が非常に入りづらくなるということになります。

さらに、特に東京の特定の大きい市場にはそれなりのものが入ってきますけど、あまり量が多くない小ロットはですね、運べなくなる、こういう事態が発生するわけです。

或いは運べたとしても、非常にコストが高くなる事態が発生するはずで。市場が今までやってきた戦略と変えざるをえないというところで、確かに1つの見方とすれば、残念ながら松戸のこの市場に入ってこない、特に長距離のものが入って来

ない可能性が非常に高い。入ってこないということになると、より近くのところから集めてくることによって、その需要と供給を合わせる考え方も当然重要なのですね。

先程JAさんの話がありましたけれど、東葛産だけで全部の野菜の色々な品揃えをすることは絶対無理だけど、できるだけ広範囲に、品揃えを東葛産で揃え、それで当然駄目な物もいっぱいありますからそれは、東葛に限らず、もう少し広域にとっても、100キロ200キロぐらいの圏域でできるだけ集める形で、できるだけ近場のところで、集荷できる体制、そして、そこでこれだけの人口の松戸市民に対してうまく供給する、そういう仕組みを作るといふ考え方が非常に重要だと思います。

そういう意味では、生産と市場がうまく連動する、そしてもう少し広域にうまく集めていく、生産の仕方を少し変える、流通の方も集め方を変える、こういったことも含めて変えていかないといけない。変えることが必要になっている。そうじゃないと、残念ながらどんどん今は卸市場が二極化して、特定の本当のいくつかの市場だけが大きくなって、他のところはどんどん弱まることは間違いない。ですからその中で、松戸として、どういう形でそこで生き残るか。違う戦略を取るかというところが重要だと思います。

以上です。

【島田会長】

ありがとうございます。すごく大きい問題が起きて、結局その商品の値段が高くなるのは、確実です。それともう1つは私が2001年に初めて南部市場といったときの感想は1つです。ここは宝の山だと思う。こんな新鮮なものがすべて、安く買える。どうしてここを宣伝しないのだろうと思いました。私はそういう意味でこの良いところを発信していくことはすごく大事だと思います。

だから、消費者のニーズも変わってくるし世の中も変わってくるけれど、そこでいいものを安く売っていく。絶対生き残ることですね。でもそれは簡単じゃない時代に入ってきたということです。ここで皆様たちが知恵を出し合い、それとお互いに情報交換して、より良い市場にしようという気持ちがあれば、アンテナが出ているわけですから何かに引っかかります。

年に2回ありますこの会議で皆様たちが何か帰りに、考えながらどうしたらよくなるだろう。そういう時間になったらとてもありがたいと思います。みんなで力を合わせて、素晴らしい市場にしていきたいと思っています。

この次の会は、この皆様たちが、いただいた意見をちょっと精査して、また、開きたいと思っています。今日はお忙しいところありがとうございました。

【後藤委員】

この会はどのあたりまで、関わっていけるのかがわかっているならば、知らせていただきたいのですけれども。どうすればこの市場に品物が集まるのか、ということで、市場に品物が集まって、取引高が多くなれば、他の市場に行っていた方も南部市場に行けば品物があるということで、益々集まってくると思うのですけれど。

どの辺まで関わっていけるのか、ということを知りたいのですけれども。

【島田会長】

ある意味でみんなプロフェッショナルです。消費者代表の方は、消費者としてのプロフェッショナルです。自分の立場で意見を言っていく、ということがすごく大事ですから、事前に勉強しないで結構です。

ここに来て、色々なことを吸収していただいて、それで自分の意見を持っていただく。こうした方がいいじゃないですか、ということも大事な意見です。ですから、余りにも色々なジャンルの方がいらっしゃるの、何か勉強しなければと思わないで結構です。

ここで勉強していただいて、ご自身のご意見を言っていていただくことがないって、みんなが力を合わせて、よい南部市場にしましょうという気持ちを持っていただければ、それでこの十何年やってきた訳ですから。ぜひそういうふうにして、いらしていただきたい。よろしいですか。

【事務局】

事務局からも簡単にお話をしたいと思います。南部市場には市場区域があり、その中の一部に公設としての青果部がございます。

この運営審議会は、色々な意見を言っていた中で、当然食の流通ですとか、賑わった市場にしていくためにはどうしていきたい、賑わせるために市場をどのようにしていくか、ということも1つの課題にはなるのですが、まず公設の部分といったところについて、皆様のご意見をいただいて、今後の施設整備、運営に関すること、公正かつ効率的な売買取引の確保が図れるような、議論をしていただきたい、というのが事務局としてはあります。

とは言いましても、松戸市内に1つしかない、まして公設市場は千葉県内で6市場しかございません。そういった面でも非常に大切な役割を果たしている南部市場だと思っていますので、全体を含め、なおかつ公設の部分をどのようにしていったらいいのか、そこにポイントを置いて、この運営審議会にご出席いただき、忌憚のないご意見をどんどん言っていただければと思っております。

当然、施設会社でございますいちごマルシェ様とも色々共有させていただき、どのような形が一番いいのか、各方面とも共有を図りながら、こちらでご紹介、また議論の場として色々な問題を提案させていただきながらご意見をいただいて、運営していきたいと思っておりますので、今後ともご協力を賜りますようお願い申し上げます。

【島田会長】

ありがとうございました。今後も皆様から頂きました様々なご意見、ご提案を踏まえながら、議論を進めていきたいと思っております。

本日は議事進行にご協力いただきありがとうございました。それでは事務局にお返しします。

【事務局】

島田会長、矢野副会長、本日はどうもお疲れ様でした。また、ご協力いただきましたJAとうかつ中央の本田委員には、今回の資料、またご説明等をいただいた事につきまして感謝申し上げます。

また、今後とも皆様の忌憚のないご意見とご協力を賜りながら、この地方卸売市場運営審議会運営して参りたいと思っておりますので、今後ともまたよろしくお願ひしたいと思ひます。

本日はお忙しい中、ご出席いただきまして、ありがとうございました。

【司会】

本日の議事はこれで終了にもなりますけれども、事務連絡が1点ございます。

本日の会議録につきましては、会長、副会長にご確認いただいた後、皆様に配布させていただきますとともに、松戸市情報公開条例に基づきましてホームページ等でも公開する予定となっておりますので、よろしくお願ひいたします。

それでは以上をもちまして、第2回市場運営審議会を終了とさせていただきます。本日はお忙しいところ、ご出席いただきましてありがとうございました。

- 閉 会 -